

♪ アナログ撮影装置をデジタル撮影装置への提案 ♪

* 現在使用の健診バスは、まだまだアナログ撮影装置搭載のバスで使用年数も15年から20年以上使用も多いと思います。

装置メーカーとしても古い装置の部品がなくなるとの事で買い替えを盛んに提案されますが、現実問題としてDR車は高額でありまた数台となると、一度にデジタルX線装置に入れ換えることは採算面、資金的にも大変問題であります。数十台健診車を所有の施設では、やはり数年の期間をもってデジタル化の方向に行かざるを得ません。それでも金額的には相当の負担になります。

そこで少しでも「低価格でデジタル化」にすることが出来ればと開発されたのがCCDスポットカメラ方式です。(特許製品)

胃部撮影装置の場合現在のアナログカメラ部分を、CCDスポットカメラに交換することにより、低価格でデジタル撮影装置に転換する事が出来ます。

現在のフィルム方式によるフィルム代、現像処理代、再撮等の経費で、撮影件数にも寄りますが、スポットカメラ装置代は

2~3年で償却出来るものと思います。CCDスポットカメラへ交換することによりX線装置に対する負荷も軽くなります。

ただ使用年数のあるX線装置は、今後、装置メーカーからの部品補給が何年出来るか、わからないとも言われますが、

いずれにしてもその装置をあと何年使用するかにかかっていると思います。健診車の使用年数の配分との兼ね合いもありますがまずは現在アナログ車の比較的若い順からCCDスポットカメラに数台ずつ交換していかれ採算性を検討される事を提案します。

万が一スポットカメラの付いたX線装置が壊れ、メーカーで部品の補給が出来ないと言われた場合は、古い装置の部品を利用交換するか、装置の補充が必要であれば新装置に切り替えるしか方法はないと思いますし、スポットカメラの乗せ変えも出来ます。

いずれにしてもDR化は避けて通れませんし、一度に入れ替えるには経済的に相当の負担と採算性の問題も有ります。

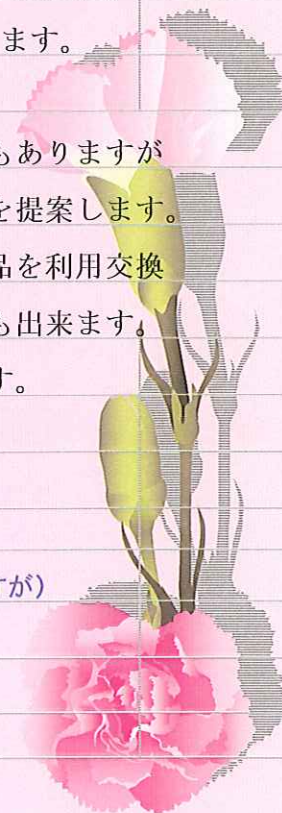
そんな観点から早めに年数の比較的新しい装置から予算に合った台数をデジタル化される事を提案いたします。

すでに120台以上の納入実績が有り好評を得ています。

リース方式ではCCD方式スポットカメラでデジタル化する為に、資金的問題はほとんど発生しないと思われれます。(撮影件数によりますが)

削減された消耗経費と装置を導入された費用との採算性を是非ご検討下さい。

* ご一報頂ければデモ画像を持参して説明にお伺いいたします。



” デジタル化(T-DRM)で経費削減を考えて見ませんか ”

採算性向上

例-1 胃部用スポットカメラ

GDR-M本体納入価 750万円 6年リースの場合

リース料	6年	年間	1,380,000円	115,000/月	円
1枚撮影消費(間接)			50円		
				(現像、定着、現像器保守、電気料含む)	
撮影枚数	5,000人 (8枚/人)		40,000枚	×	50円 = 2,000,000円
	7,000人 (8枚/人)		56,000枚	×	50円 = 2,800,000円
	10,000人 (8枚/人)		80,000枚	×	50円 = 4,000,000円

胃部年間経費差額試算

* 装置を導入することによるコスト削減

件数/年	フィルム他経費 (年間消耗経費)	年リース料 (装置リース)	経費削減 (リース、経費差)	年間削減率 (リース支払)
5,000人	2,000,000	1,380,000	620,000	30%以上
7,000人	2,800,000	1,380,000	1,420,000	50%以上
10,000人	4,000,000	1,380,000	2,620,000	65%以上

* デジタル化(T-DRM)で経費(フィルム、現像処理費等)の大幅削減を30%~50%~60%

例-2 胃部、胸部用

T-DRM, FPD システム金額 1,600万

リース料	6年	年間	2,940,000円	245,000/月	円
撮影件数	胸部 25,000人、胃部 10,000人検診				
胸部枚数	胃部枚数	年間使用枚数		経費合計(年)	
25,000枚	80,000枚	= 105,000枚	× 60円	6,300,000円	

胃、胸部年間経費差額試算

* 装置を導入することによるコスト削減

経費合計金額	年リース料	経費削減	(償却年数)
6,300,000円	2,940,000円	3,360,000	2.6年